

火災事例から学ぶ火災予防



敦賀美方消防組合

「火災事例から学ぶ火災予防」は、火災予防の資料として活用していただくため、敦賀美方消防組合管内において発生した火災の中から主な事例を抽出したものです。

管内における上位の火災原因として次の原因が多くあげられます。

- ☆たばこ
- ☆たき火
- ☆排気管（車両）

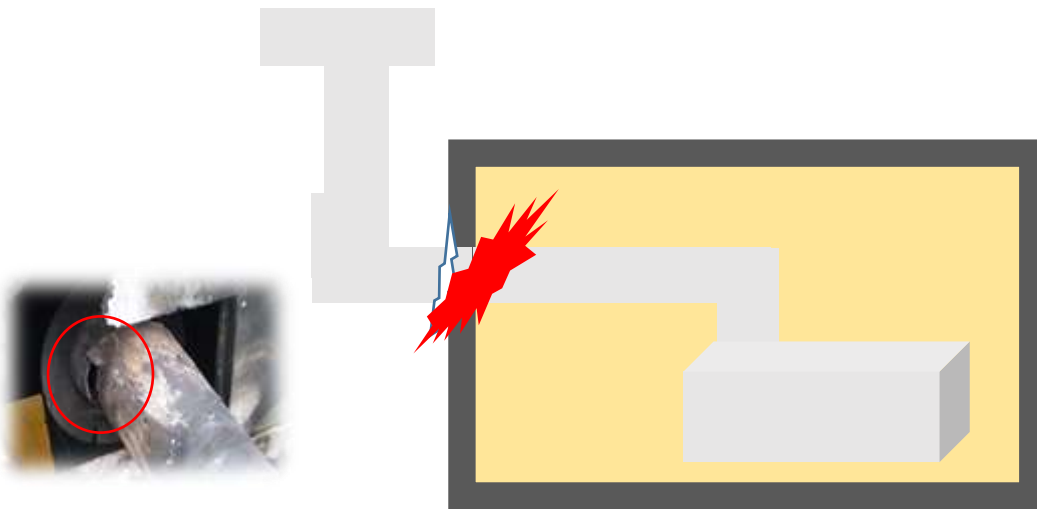
今後火災事例について追加していく予定ですので、火災予防の参考にしていただき、出火件数の減少と火災による被害軽減の一助になれば幸いです。

No. 1	煙突の施工不良による火災
No. 2	調理中の天ぷら油からの出火
No. 3	児童が電子ライターで火遊びし出火
No. 4	ごみ袋に捨てたタバコの吸い殻から出火
No. 5	たき火が拡大し延焼
No. 6	自動車の排気管が枯草に接触し出火
No. 7	溶断器の火花から出火

【煙突の施工不良による火災】

- 1 出火月・時間 4月 19時ごろ
- 2 出火建物 作業所 木造
- 3 出火程度 ぼや火災
- 4 死傷者 なし
- 5 原因概要

この火災は、焼却炉の煙突を自分で施工した際に、接続方法を適正の行わなわなかったため、接続箇所から噴出した高温の煙が付近の柱等に長期間当たったため炭化状態となり出火したものです。



6 予防対策

煙突などの工事に関しては、建築基準法や火災予防条例などにおいて施工方法が定められています。火災の危険がありますので、専門知識のある業者に依頼するようにしましょう。

【調理中の天ぷら油からの出火】

1 出火月・時間 2月 21時ごろ

2 出火建物 専用住宅 木造

3 出火程度 部分焼

4 死傷者 なし

5 原因概要

この火災は、1階台所内の2口ガステーブルから出火したものです。居住者の主婦が、夕食の準備をするため、フライパンに天ぷら油を入れガステーブルで加熱したのを忘れて出かけたところ、時間の経過と共に天ぷら油が発火温度に達し出火したものです。幸い付近住民が発見し消火しました。

なお、使用していたバーナーに過熱防止装置がついていましたが、鍋が変形していたため作動しませんでした。



6 予防対策

天ぷら油は発火温度（約360℃、油の種類・状態により差がある。）以上になると、火種が無くても火がつきます。

こんろ使用時は、「その場から離れない、離れる時は火を消す」ことが大切です。

調理油過熱防止装置付きガステーブルで調理する場合は、過熱防止装置の付いている方を使用するとともに、センサーが作動しているか確認しましょう。

【児童が電子ライターで火遊びし出火】

1 出火月・時間 7月 12時ごろ

2 出火建物 専用住宅 木造

3 出火程度 部分焼

4 死傷者 なし

5 原因概要

この火災は、児童が居室において仏壇用の電子ライターで紙に着火してものを投げ捨て、布団に着火したものです。火遊びをまさかしないと思っていたためライターは普段から手に届くところに置いてありました。当時は両親が家にいたため早期の避難、通報により負傷者は出ませんでした。



6 予防対策

子どもたちは大人の行動に興味を持つものです。たばこを吸う時のライターやマッチで火をつける動作など、大人が気付かないうちに子どもたちはたくさんすることに興味を示しています。

ライターやマッチで火をつけるという動作は、小さな子どもでも簡単に行うことができます。しかし、子どもたちは『火がついたら、どうなるか』という認識はありません。

子供が火遊びをするのは大人の責任です。火遊びをさせないために、次のことに注意しましょう。

①ライターやマッチを子どもたちの手の届くところに置かないようにしましょう。

②子どもたちが火遊びやたき火をしていたら注意し、再発防止を図りましょう。

【ごみ袋に捨てたタバコの吸い殻から出火】

1 出火月・時間 2月 11時ごろ

2 出火建物 専用住宅 木造

3 出火程度 部分焼

4 死傷者 なし

5 原因概要

この火災は、灰皿に溜まったタバコの吸い殻をベランダに置かれていたごみ袋に捨てたところ出火、ベランダを焼損したものです。灰皿の吸い殻の火は消えたと思いごみ袋に捨てましたが、水などかけて完全には消火していませんでした。



6 予防対策

喫煙時、タバコ中心部の温度は700℃から800℃前後にもなり、その吸殻を不用意に捨てると、捨てる場所によっては火災になることがあります。

タバコの吸殻を捨てる場合は、完全に消えているか確認し、水をかけてから燃せるごみとして捨てましょう。

また、灰皿にはいつも水を入れておくようにしましょう。

【たき火が拡大し延焼】

1 出火月・時間 6月 13時ごろ

2 出火建物 屋外（休耕田）

3 出火程度

4 死傷者 なし

5 原因概要

この火災は、休耕田でたき火をしていたところ強風にあおられて拡大し付近の枯草などにどんどん燃え広がり消火できなくなったものです。行為者は消火準備を行わずにたき火をしていました。



6 予防対策

廃棄物の焼却行為は、一部の例外を除き、禁止されています。
たき火による火災のほとんどが、少しの不注意で発生しています。
たき火をする場合は次のことを守り、たき火による火災を防ぎましょう。

- ①立会いと消火の準備を確実に！
- ②風の強い日、空気が乾燥した日にはたき火を行わないようにしましょう
- ③消防署への届出をしてから行うこと
- ④必ず消火の準備をしてから行うこと
- ⑤たき火をしている間は、その場を絶対に離れないこと
- ⑥確実に消火されているか周囲を確認し離れること

【自動車の排気管が枯草に接触し出火】

1 出火月・時間 9月 10時ごろ

2 出火建物 乗用車

3 出火程度 全損

4 死傷者 なし

5 原因概要

この火災は、枯草の上に停車していた車両から出火したものです。停車した際に、集積してあった枯草が、高温の排気管に接触したため枯草から出火しました。



6 予防対策

自動車下部の排気管の温度は700℃近くまで高温になることもあり、可燃物が触れると出火する恐れがあります。また、漏れたエンジンオイルなどが排気管に触れて出火するケースもありますので、日常の点検を十分に行う必要があります。

【溶断器の火花から出火】

1 出火月・時間 5月 17時ごろ

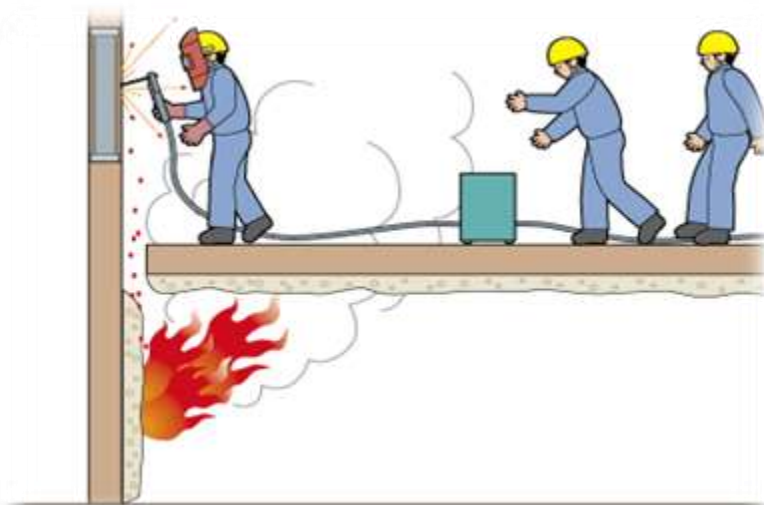
2 出火建物 解体中の建物

3 出火程度 ぼや

4 死傷者 なし

5 原因概要

この火災は、解体業者が建物を解体中に使用したガス溶断器から出た火花が廃材に着火したものです。解体の作業付近には、木くずや廃材が堆積しており、遮へい等もしていませんでした。解体作業が終了後に出火しましたが、幸い家人が早期に発見したため大事には至りませんでした。



6 予防対策

火気作業を行う場合は次のことに留意しましょう。

- ①周囲を不燃性のシート等で遮へい、可燃物の除去及び消火器等の消火準備
- ②可燃性の物品や危険物等のそばでの火気使用の禁止
- ③溶接などの作業周辺の点検や作業中の監視